

## 2018 年（平成 30 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

### 2018 年（暦年）段ボール需要予測 14,400 百万 m<sup>2</sup> 前年比 101.2%

2017 年の国内経済は、7-9 月速報値で前期比実質 GDP 成長率が年率 1.4% 増となり、7 四半期連続のプラス成長を確保し、緩やかな回復基調を維持している。民間調査機関による直近の予測では 2017 年度実質 GDP 伸長率は概ね 1.5% 程度となっている。

2017 年の段ボール需要は堅調なペースで推移し、1-10 月累計で前年比 101.9% となり、1-12 月累計では、2016 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 101.0% を上回る 142 億 2,900 万 m<sup>2</sup>（前年比 101.8%）程度となる見込みである。

2018 年度の国内経済は、世界経済の不透明感が強いものの、オリンピックに向けた需要等、引き続き緩やかな回復基調が続くと予想されており、民間調査機関による実質 GDP 成長率予測は概ねプラス 1.2% 程度となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2018 年（暦年）の段ボール需要を 14,400 百万 m<sup>2</sup>（前年比 101.2%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月 101.2%、4 - 9 月 101.1%、10 - 12 月 101.5% と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比 41%）は、世帯構成の高齢化、共働き世帯の増加による中食の増、訪日外国人による需要増等が引き続き見込まれ、1% 強の伸びと予測。

「その他」（構成比 17%）、文具・事務用品等はペーパーレス化が逆風となるが、紙おむつ、高齢者向け衛生用品、ペット関連商品等が引き続き好調で 1% 程度前年を上回ると予測。

「青果物用」（構成比 11%）は就業人口の減少、高齢化による作付面積の減少等、構造的なマイナス要因がある。しかし、規制緩和による植物工場の増加や通販等の流通チャンネル拡大等のプラス要因もあり前年並みと予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比 8%）は、高性能・高付加価値製品の需要増による国内生産品の増加等により、1% 程度前年を上回ると予測。

「通販・宅配・引越し用」（構成比 5%）は引き続きネット販売を中心に好調で、8% 以上増えると予測。

以上

## 段ボール生産量推移

